



学校だより
ながや

令和元年度 第9号
令和2年 1月7日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

新しい年を迎えて

自ら考え、人とつながり、未来をつくる永谷の子

校長 平野 好子

新しい年が始まりました。今年、令和の元号となって2年目となります。また、日本でオリンピック・パラリンピックが開催される年となります。目標に向かって、懸命に取り組む選手たちや最高のパフォーマンスを発揮できるよう支える人たちの熱い思いが感じられ躍動感あふれる年になるであろうと期待に胸をふくらませています。

新年を迎え、年末年始をそれぞれの家庭で過ごした子どもたちが学校に戻って来ました。登校時の冬の冷たい空気の中、子どもたちと地域や保護者の方で、そして子どもたち同士で自然に交わされるあいさつが温かく感じます。あいさつし合うことでそれぞれの笑顔が誘います。子どもたちの笑顔とあいさつが永谷小学校の原動力です。学校は、子どもたちが安心して笑顔で過ごせる場をつくる教育活動を今年も進めてまいります。保護者の皆様・地域の皆様におかれましては、なお一層のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

今年度、教職員とともに子どもたちのために、あらゆる場面で安心できる居場所づくり・認め合うことを大事にしてきました。「多様化を大切にする」、最近よく聞く言葉です「人は、みな違うということを理解し合うこと」「画一的にみんなと同じにする必要はないということ」「何が何でも仲良くしなければならないのではなく、対立したときに、どうしたら、自分とは違う相手を理解しようとするかを探ること」今までも、大事にしてきたことです。しかし、今一層、そのことを大事にしようということで、取り上げられているのではないかと思います。

自分はこれでいいのだと自分の居場所を確認できることで、自分との違いを理解しようとするのだと思います。人はみんな違う、違って当たり前、意見が違うのも当たり前、じゃあ、どこが違うのだろう。〇〇さんの言うことと、自分の思いは何が違うのだろうと考えてみようとすることで、相手の考えを受け止めることとなります。受け止めることで、相手との対立を激しくすることなく、なぜ受け入れられないのかを伝えるようにできるのではないかと思います。相手に従うのではなく、自分が相手に合わせるのではなく、自分とは違う考えを知ることが相手を理解することです。そして、自分はどうか考え伝えることです。これは、言葉で言うのはたやすいことですが、なかなか難しいことです。

認め合うためにも、多様性を尊重し、価値観や背景の異なる相手と共生していくことについて学校生活の具体的場で子どもたちとともに考え、共生していく力を育てていきたいと考えています。

今年一年、永谷小の子どもたちそれぞれが、自ら考え、人とのつながりを大切にしながら目指す姿に取り組む教育活動をつくっていきたいと思います。